

国連における「核兵器のない世界に向けた共同行動の指針と未来志向の対話」決議

令和元年12月13日
外務省軍備管理軍縮課

決議のポイント

- 1994年以降、毎年、核兵器廃絶に向けた決議案を国連に提出。
- 本年の国連総会は、2020年核兵器不拡散条約(NPT)運用検討会議前の最後の会期。同会議を見据え、各国の橋渡しに努め、共通の基盤を構築するための取組。
- 核兵器国と非核兵器国の共通基盤の構築に資するものとして、核軍縮について国際社会として直ちにに取り組むべき共同行動の指針と未来志向の対話の重要性に焦点。

採択結果

- 11月2日(現地時間1日)、国連総会第一委員会で採択(共同提案国56(英を含む))。賛成148, 反対4, 棄権26
- 12月13日(現地時間12日)、国連総会本会議で採択。賛成160, 反対4, 棄権21

決議の主要要素

- 核兵器のない世界の実現は国際社会の共通の目標。
 - 2020年NPT運用検討会議の意義ある成果の重要性を強調。過去のNPT合意文書の履行の重要性を再確認。
 - 核兵器のない世界に向けた様々なアプローチに留意。
 - 核軍縮と安全保障が相互補完的であることを強調。
 - 核兵器の壊滅的・非人道的な結末を認識。指導者や若者等の広島・長崎訪問を歓迎。
 - 北朝鮮の非核化に関し、米朝プロセスへの支持を表明。
-
- 国際的な緊張の緩和、国家間の信頼強化及び国際的な核不拡散体制の強化等を通じ、核兵器の廃絶という最終的な目標にコミットし、第6条を含むNPTの完全かつ着実な履行にコミットすることを再確認。
 - 直ちにとるべき共同行動の指針として、①透明性向上及び信頼醸成、②核リスク低減、③FMCTの交渉開始に向けた取組、④CTBTの署名及び批准に向けた取組、⑤核軍縮検証及び⑥軍縮・不拡散教育、被爆者との交流、被爆の実相の理解向上、を慫慂。
 - 未来志向の対話として、①自国の核政策・ドクトリンの説明及び双方向の議論、②科学技術の進展が軍備管理・軍縮・不拡散に及ぼす影響に関する対話、③軍縮と安全保障の関係に関する対話、を慫慂。
 - 北朝鮮による核兵器及びあらゆる射程の弾道ミサイルの完全な、検証可能な、かつ、不可逆的な廃棄の実現へのコミットメント及び全ての国による関連国連安保理決議の完全な履行の責務を再確認。

前文

主文